

平成20年度 佐賀県立佐賀商業高等学校（定時制） 学校評価結果

1 学校教育目標	
生徒の個性や能力を大切に、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、他人に対する思いやりや人間尊重の精神を涵養し、社会の発展に寄与しうる人材を育成する。	
2 学校経営ビジョン	
(1) 基本的な生活習慣を身に付け、生き方や在り方を考え、地域社会に貢献できる人材を育成する。 (2) 興味関心を喚起する授業実践と生徒理解に努め、進路希望を実現させる。 (3) 地域・保護者と連携を強化し、信頼・期待される学校を目指す。	
3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1) 授業の充実 (2) 欠席や欠課時数の減少 (3) 喫食率の向上と正しい食習慣、自己管理能力の育成	生徒たちの講話や全校集会で人の話を聞く態度は全体的にかなり良くなってきた。給食の喫食率もかなり向上させることができた。就労率は徐々に向上してきた。また、年度内に就職や短大・専門学校への進学を決定する生徒が増した。しかし、年度の途中で休学したり、退学する生徒が多く、また年度末に欠席や遅刻が増えた生徒もいた。今後とも折に触れて生徒への声掛けを続ける必要がある。さらに職員間の共通理解はもちろん、三者面談・家庭訪問・職場訪問などをより効果的に実施して保護者・地域との連携をさらに深める必要がある。また、進路指導についてももっと充実させる必要がある。

5 総括表							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由		具体的方策	成果と課題
学校 運営	○学校経営方針	・本年度重点目標の周知	・教職員、生徒、保護者に周知する。 ・周知度を75%以上にする。	C	生徒・教職員には周知できたが、保護者への周知は不十分であった。	・職員会議や全校集会等で説明する。 ・後援会総会、三者懇談会等で学校だよりを配布し、具体的取り組みを説明する。	生徒・職員にはその都度説明し周知したが、保護者に対しては後援会総会、三者面談等で説明したが出席率が悪くなかなか徹底できなかった。
		・授業研究の推進	・各学期毎に公開授業を実施する。	B	学期ごとの公開授業はできなかったが佐賀市の特別支援教室からの訪問や定時制希望の生徒・保護者の訪問時に授業を公開した。	・いつでも授業公開ができる体制を整える。	いつでも授業を公開できる体制はできており今後も継続させたい。
	○教職員の資質向上	・校内研修を年に3回実施する。	・校内研修を年に3回実施する。	B	心の健康づくり講話や特別支援教育に関する研修、人権同和教育研修など3回以上実施できた。	・教職員の綱紀粛正や特別支援教育等に関する学校の諸課題について校内研修を計画的に実施する。	今年度と同様職員のスキルアップにつながるような研修を行いたい。
		・社会の変化に対応した教育の実践	・校外研修を年に少なくとも1回は受講する。	C	定時制ということもあり勤務時間の関係で授業日に実施される校外研修は受講することができず、受講者は少なかった。	・学校教育課主催の研修や教育センター等を活用し、社会の変化に的確に対応できる教員の育成を図る。	長期休業中の研修を積極的に紹介し研修を受ける機会を増やす必要がある。
	○開かれた学校づくり	・家庭や中学校への学校の情報発信	・周知度を70%以上にする。	C	クラスによってはクラス通信を発行し学校の状況を伝えたが全体としては取組が不足した。また、後援会総会への保護者の出席も少なかった。	・学校のホームページや学校だよりを通じて、学校の情報を公表する。 ・後援会総会への保護者の出席率を向上させる。	学校目標はホームページで定通総体の結果は学校便りで学校の行事等についてはEDQスクールニュースを通じて情報発信を行った。しかし、ホームページの更新や学校便りの発行は十分ではなかった。次年度は情報発信の方法を検討したい。
	・学校開放	・1つ以上の公開講座を実施する。 ・保護者や中学校の先生対象の公開授業を実施する。	B	中国語入門の聴講講座を実施することができた。また、学期ごとの公開授業はできなかったが佐賀市の特別支援教室からの訪問や定時制希望の生徒・保護者の訪問時に授業を公開した。	・中国語入門の聴講講座を実施する。 ・後援会総会や三者面談の際に授業を公開する。また、中学校からの学校訪問を積極的に受け入れる。	一般向けの中国語入門の聴講講座は好評であり次年度も継続したい。授業公開についてもいつでも対応できる体制を継続したい。	

		・地域や関係機関との連携	・学校評議員会を年に3回実施する。	B	学校評議員会を年3回実施することができた。	・学校評議員会の各委員から出された意見を吟味し、学校運営に反映する。	全定合同で学校評議員会を3回実施できた。次年度も年3回実施したい。
			・地域や関係機関に諸行事の講演や講習等の講師の依頼をする。	B	交通講話や性教育講演会等で地元の警察や産婦人科の医師の方の講演を行った。	・地域や近隣の学校・関係諸機関との連携を密にし、学校の情報や不審者情報等を共有化を図る。	講演会の講師等は次年度も引き続き地元の関係機関にお願いした。
	●学力向上	・指導方法の改善	・各教科で分野ごとの到達度を設定し、年度末の総合評価が70%以上になるようにする。	C	年度末、各教科の評価にかなり差があり不十分であった。年度末だけでなく学期ごとに到達度を設定する必要がある。	・生徒にとって「わかる授業」を実施するため、進捗計画や到達度について各教科間で再点検を行い、より良い教材を作成する。また、より良い到達度テストの開発を行う。	教科間の話し合いを行い、本校生徒にあった教材の作成とより明確な到達目標を設定し、基礎学力の向上を図るべきである。
	●心の教育	・心の健康づくり	・「心の健康」に関する意識を高める。	B	全体集会やホームルームでそれぞれ命の大切さについて指導を行った。また、いじめ問題等にも十分に気を配った。	・ホームルームや集会で命の大切さや思いやりの大切さ等の話を行う。	各担任がホームルームで日頃より指導を行った。また全体集会でも生徒指導部や保健部等から命の大切さいじめについて話を行った。今後も継続したい。
		・教育相談体制の充実	・不登校生徒等への支援体制を充実させる。	B	教育相談係や養護教諭を中心に生徒への支援を行い、中学校時代不登校だった生徒が皆勤するものも出てきた。	・職員間の連絡会を通じて連絡を密にし、関係職員が共通認識を持って対処できる体制を構築する。	職員室に全職員がいるということで生徒情報交換会の開催が少なかった。来年度はきちんと時間をとって情報交換会を行いたい。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・給食の喫食率80%を目指す。	A	今年度の給食喫食率は78.4%であった。しかし、前年度よりもかなり向上した。	・毎月「給食だより」を発行して食育指導を推進する。	「給食だより」を定期的に発行することができた。次年度も継続したい。
			・保健便りやアンケートを通して朝食をとることの意義の理解と啓発を行い、朝食をとる生徒の割合を30%以上を目指す。	B	今年度の朝食をとる生徒の割合は、27.5%であった。少しずつではあるが朝食をとる生徒が増えている。	・ホームルーム、教科指導でも食育指導を推進する。	ロングホームルームの時間に保健部で食育健康講話を年2回実施することができた。定期的を実施することで生徒への効果も見られた。次年度も継続したい。
教育活動	○生徒指導	・基本的生活習慣の確立	・欠席、遅刻、早退の数を昨年より5%減らす。	B	皆勤者が18名、精勤者が5名出るなど欠席・遅刻はだいぶ減ってきた。ただ、特定の生徒で欠席・遅刻が多い生徒がいた。	・担任との連携を深め、無届けの欠席・遅刻・早退を減らす。該当生徒に対しては段階的指導を行う。	欠席・遅刻・早退については随時担任から家庭へ連絡している。今後とも家庭との連携を行うとともに特定生徒への指導を徹底させた。
		・生徒指導方針の確認と指導体制の推進	・周知度を70%以上にする。	B	生徒指導の方針については周知度は高い。ただ、実際の行動を伴うように指導しなければならない。	・合格者説明会・入学式等、保護者が学校に来る機会を捉えて、生徒指導の方針を確実に伝える。全校集会を有効に利用して、生徒に繰り返し伝える。	あらゆる機会を利用して周知の徹底を図った。生徒が当たり前のことを当たり前に行えるよう今後も指導したい。
		・交通安全意識の向上	・事故の発生率を昨年より10%下げる。	A	事故の発生は昨年度6件、今年度4件であり、指導の効果がでてきた。	・事件や事故が起こってから指導するのではなく、ホームルームや集会を通じて交通安全意識を向上させ、事前指導を徹底する。 ・学校近隣のカーディーラーやバイク販売店の協力を得て、有効な車両点検を実施する。	ホームルームでの普段の指導や交通安全講話等を通して交通安全の意識を向上させるよう指導した。また、年度当初には車やバイクの車両点検等を実施した。自転車点検についても長期休業あけに実施した。次年度も継続したい。
		・自律的精神の涵養	・茶髪等の頭髪違反を減らす。	C	特定の生徒で茶髪やピアスが目立った。注意すれば素直に直してくる。ややピアスが増えてきているように感じた。	・管理的な頭髪検査を強化するのはではなく、給食時間や休み時間などを利用し、生徒に自主的に黒く染めてくるようにこまめに注意を促す。	生徒への声かけを重視し高校生らしい頭髪服装等を行うよう根気強く指導する必要がある。

○進路指導	・個々の生徒の適性にに応じた進路指導の充実	・勤労学生としての就労体制の支援及び助言を徹底する。 ・正式雇用就職の割合を向上させる。	B	ハローワークとタイアップを図り指導するが本人の就職希望とマッチしていないことが多い。経済危機に直面しすぐに正式採用までいたらない状況であった。	・就労状況調査を適宜実施する。 ・ハローワークや事業所等との連携を強化する。 ・講演会・講話等を実施し、勤労観・職業観を持たせ、生徒の職業意識を向上させる。 ・就職希望者にできるだけ就職試験に挑戦する指導を充実する。	4年次担任と3年生担任も進路指導部に属しており、その都度就職相談に応じてきた。ハローワークとの連携を図りながら生徒の就職指導を適切に行った。来年度も同様に取組む予定である。
		・生徒の希望する職業選択に合った進学指導を充実させる。	B	全体集会で進路意識の向上を図り勤労観・職業観の大切さを指導してきた。進学に関しては必要な情報を提示してきたが就職は経済危機により求人情報が激減した。	・進学希望者に常日頃から進学に関する基礎知識・情報等を提供する。 ・進学希望者の個別指導を低学年から実施し、学力向上に努める。 ・資格取得（簿記検定・情報処理検定・ワープロ検定等）のための特別補習授業を実施する。	進路意識をしっかり持つ生徒がクラスを中心となってきた。資格取得のために特別補習授業を行い確実に実力を身につけてきた。来年度も同様に取組む予定である。
○保健指導	・健康の保持増進	・各種健康診断の100%受診を目指す。	A	健康診断はほぼ全員受診させることができた。	・「ほけんだより」を適宜発行する。 ・各種健康診断の生徒への連絡を徹底する。	「ほけんだより」を定期的に発行することができた。次年度も継続したい。生徒への連絡は徹底できたが、受診させるのに時間を要した。保護者との連携も図りたい。

6 総合評価
<p>数年前に比べると生徒達は全体的に落ち着いて学校生活を送っており、講話や全校集会で人の話を聞く態度も良くなってきている。また、中学校時代は不登校であったが一年間皆勤を通した生徒も増えてきている。一人一人を大切に指導した結果だと思う。ただ、入学した目標・目的意識が徐々に希薄になり、年度途中で休学したり、退学する生徒も前年度から減少したとはいえ今年度も少なからずいたのは残念だった。生徒指導面では大部分の生徒は落ち着いて生活しているが一部特定の生徒に対する指導が不十分であった。進路指導面では、低学年からの進路意識の向上が必要であり勤労観・職業観の大切さを指導した。学校からの情報発信については不十分であった。</p>

7 来年度の改善策
<p>生徒に対する指導については、一人一人を大切に指導を生徒指導面・進路指導面を含めて継続して行いたい。職員の校外研修については、定時制ということを考え長期休業中の研修を積極的に紹介し参加できる体制づくり行いたい。また、保護者や地域に対する情報発信については発信の方法も含め検討する必要がある。</p>